

3 - 16 三浦半島北武断層近傍における地殻歪

Crustal Strain on and around the Kitatake Fault, Miura Peninsula

地質調査所

Geological Survey of Japan

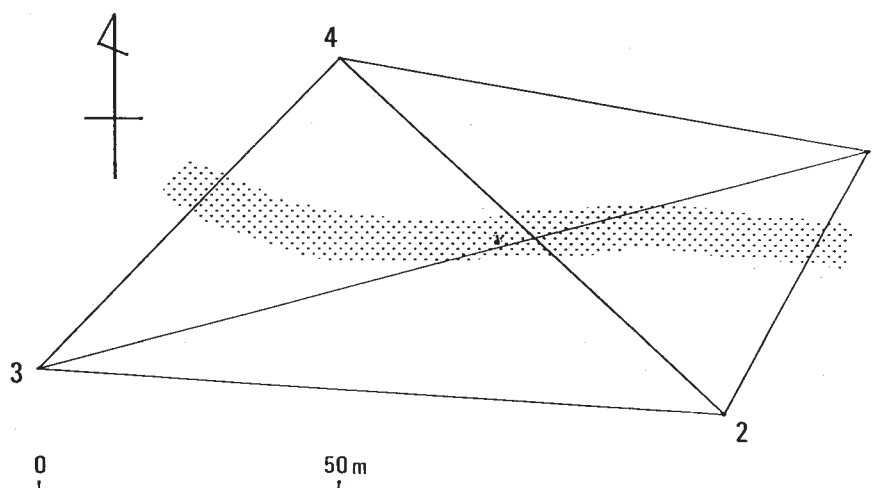
地質調査所では標記の断層で、断層をまたぐ基線網の繰返し精密三角測量を実施してきた。¹⁾
^{2, 3)} 今回は 1975 年 3 月を基準として、1989 年 3 月までの結果を示す。

辺長の変化、各期間ごとの主歪に際立った傾向は認められない。面積変化では、4～5 年を周期とする収縮一回復の傾向が認められる。上下変動（1 号点を基準）において、3 号点が 1984 年を境として 0.5mm 程度上昇した他は際立った傾向は認められない。

(齋藤 英二・衣笠 善博)

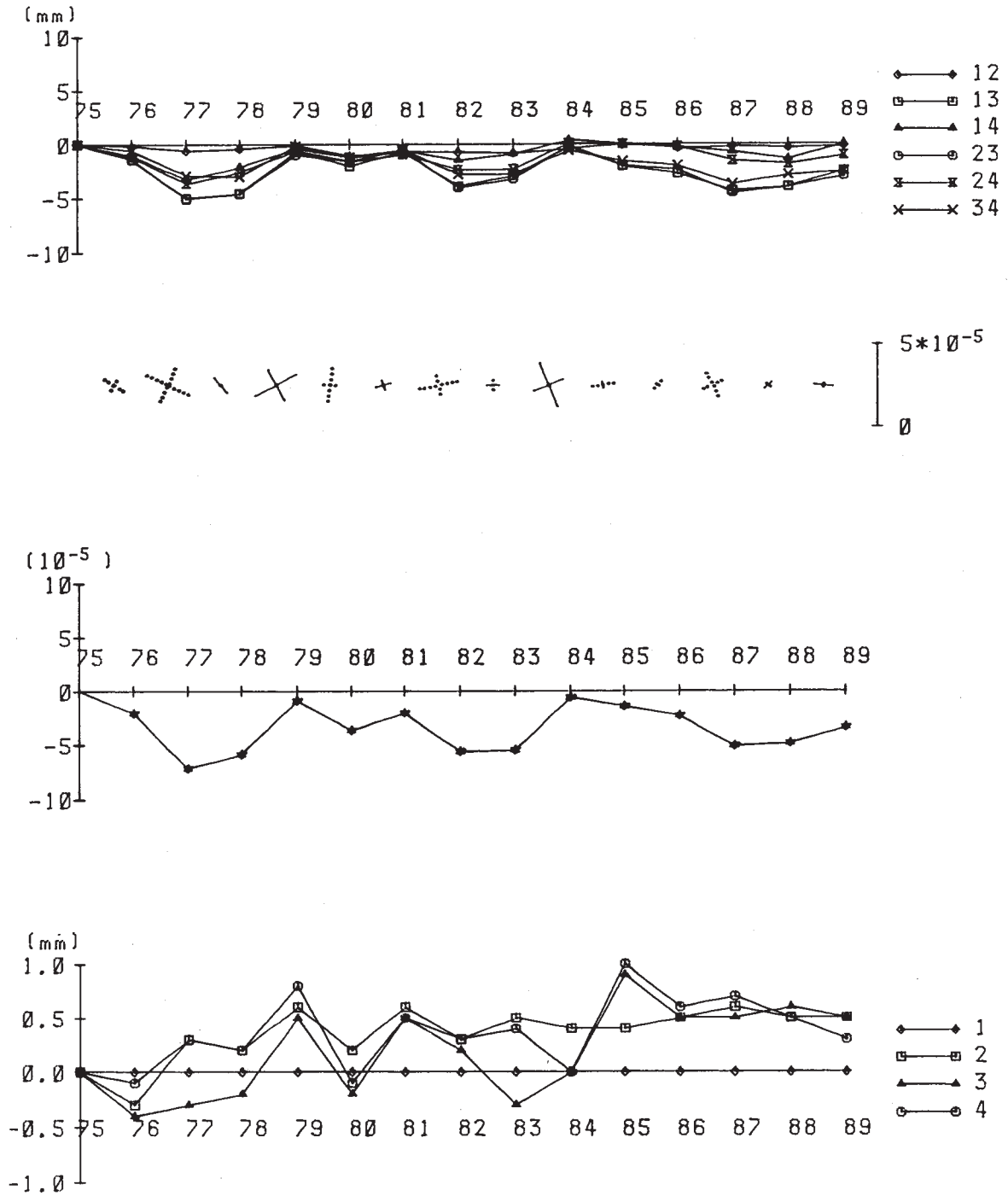
参 考 文 献

- 1) 地質調査所：南関東の活断層近傍の地殻変動，連絡会報，**9**（1973），42 - 45.
- 2) 地質調査所：三浦半島北武断層，房総半島延命寺断層における地殻歪，連絡会報，**29**（1983），105 - 106.
- 3) 地質調査所：北武断層，延命寺断層近傍の地殻歪について，連絡会報，**33**（1985），167 - 168.



第 1 図 網 図

Fig. 1 Configuration of the network.



第2図 北武断層近傍における地殻歪 上から、辺長の変化(1975年基準)、期間ごとの主歪(実線:伸び, 破線:縮み)、面積歪(1975年基準)および上下変動(1975年の1号点基準)

Fig. 2 Crustal strain on and around the Kitatake Fault. From top to bottom, change of the side length, principal strain at each interval, dilatational strain and vertical movement, respectively.